

研究1: 生物・心理・社会的情報の測定手法の開発

構成する手続き

① 経験サンプリング法 (簡易脳波計とスマートフォン使用)

- ・安静時脳波指標
- ・特定時点の心理的指標



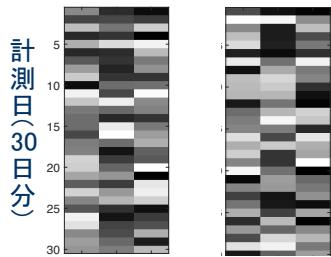
② ライフログの継時的測定法 (スマートフォンとデバイス使用)

- ・心理的指標
- ・身体症状
- ・ライフイベント
- ・職務などの習慣行動
- ・睡眠などの健康習慣



収集されるデータセット例

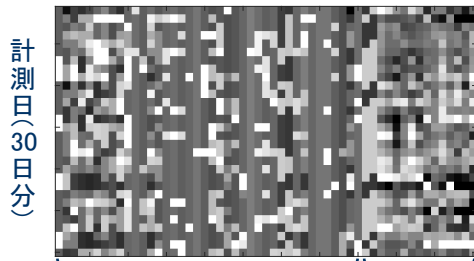
経験サンプリング (1日3回計測)



朝・昼・夜

朝・昼・夜

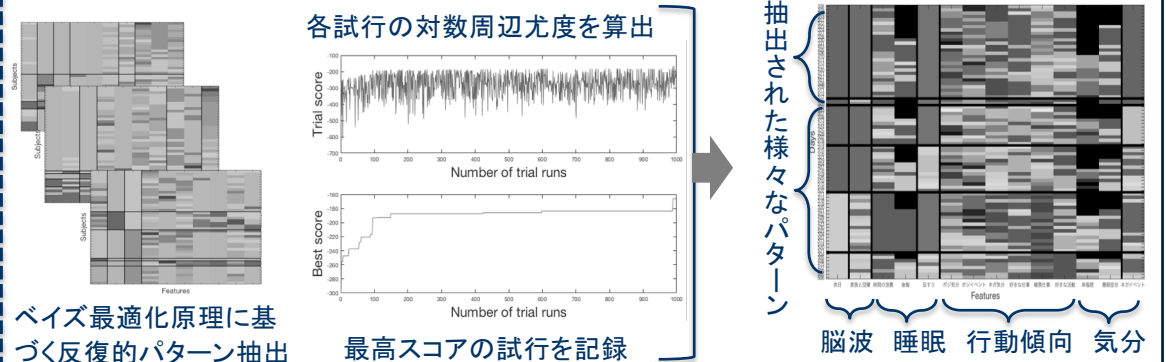
継時的測定法 (1日中、計測)



多様な心理社会指標 睡眠・運動
※上図では、X軸は日々の指標の総計を示す

研究2: 「個々の病態」を可視化するための解析手法の確立

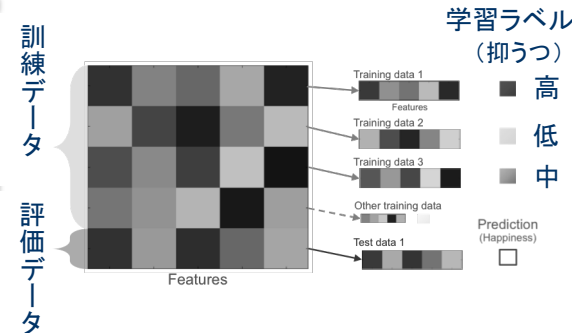
※ベイズ共クラスタリングを用いた解析例



病態を顕著に示す生物・心理・社会的情報パターンの自動抽出を試みる

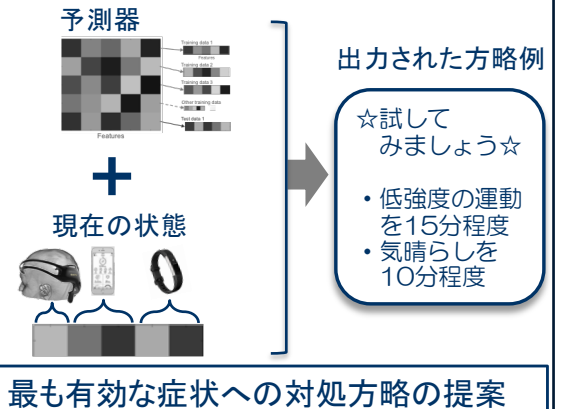
研究3: 「病態」予測技術の探索

※教師あり学習の活用例



個に特化した症状の予測器を構築する

研究4: 「病態」に基づく行動提案システムの効果検討



最も有効な症状への対処方略の提案

Figure. 研究手続きの概要図

(研究課題: 人工知能技術に基づく個々の病態に最適化された治療的介入技法 (AI-Based Behavior Modification: AiBM) の創出)